

ボランティア相談員の養成

社会福祉法人 いのちの電話

〒102-0071 東京都千代田区富士見 1-2-32

助成事業の概要

実施目的：電話のかけ手の気持ち・感じ方・今の気持ちを受容し、また、うけ手として、かけ手との共感関係を構築する能力を育てます。

実施時期：養成研修の合宿：2025 年 4 月 26～28 日（2 泊 3 日合宿）

インターン研修：実施日未定

内容等：養成合宿研修：国立オリンピック記念青少年総合センターで、宿泊を伴う研修を外部講師と相談員リーダーのファシリテーターにより進めました。受講生 20 名が主体的に取り組む体験的合宿研修で、アイスブレイクのワークの後、全体研修 3 回とグループセッション 8 回を行いました。主に今ここでかかわることを体験し、全体研修では、絵・文字による自己表現や外気を味わいながら 2-3 人で語り合い、それを体の表現でシェアする体験もしました。

なお、今回は、盲導犬を帯同する受講生 1 名の参加がありました。

インターン期：相談員として活動を開始する 20 名と、他のセンターから移籍してきた相談員数名を対象に、組織、事務手続き等の詳細を説明するなどを予定しています。組織として活動する点を強調して不安を抱かぬように配慮します。

事業の成果

今年度は予定していた研修施設が急遽工事に入り、実施が危ぶまれましたが予定外の施設を何とか予約して実施することができました。

相談員養成研修は 1 年余の長い研修期間であり、Ⅰ期・Ⅱ期では相談員としてかけ手の気持ちに寄り添うために、対話の中で自分の気持ちの動きに気づくことを中心に研修を進めてきました。それに続くこの合宿研修では、全体研修・グループセッションともに「今、ここで」起きていることに気づく体験をして、「今、ここで」の気持ちに関わる力を少しずつ身につけることができました。合宿という形態から、日常から離れた場所で普段気づくことができない自分の他者との関係性や感じ方に直面することになります。これらの 3 日間を過ごして、受講生の進み具合はそれぞれですが、自分への気づきを推進することができて、研修担当者もその変化を見られることを実感しました。合宿後は最後の養成期間に入りますが、その準備ができたことになります。

今回、初めて盲導犬も一緒に参加することになり、当団体では初めての経験となりました。事前に施設側との調整や研修内容の見直し、補助者の確保などがあり、準備に工夫が必要でした。打合せをいつもより念入りに行い、講師の方々にも負担が増えましたが、結果的に問題なく終了することができました。また、元々ボランティア精神が旺盛な受講生の方々ではありますが、受講生同士が自然体で協力し合う姿がみられ、盲導犬に対する理解が深まったと感じました。盲導犬を帯同した受講生からも「沢山の仲間の支えがあり、良い体験になった。」というレポートが届いて安堵しました。いのちの電話としても、盲導犬の受け入れ態勢に自信を持つことができて、良い機会となりました。

■ 成果の広報、公表

いのちの電話は一期一会の電話の出会いの中で、かけ手の思いや苦しみを聞き、少しでもかけ手の孤独を癒し、苦しい思いが落ち着き、頭の中を整理する助けになることを心がけています。そのため相談員になろうとする者は自己の価値観を見直し、かけ手の思いに寄り添うための研修を受けます。いわゆる頭で考えたことや体裁の良い言葉や励ましによる「解決」などではなく、気持ちのやり取りができるようになるためには大変時間がかかります。そのために様々な場面での研修が必要です。常に研修を行い、仲間同士の励まし合い、学習し、自分をふりかえることを念頭にしています。これで終わり、ということがなく、相談員になった後も継続的に研修を行っています。社会は常に変化し、戦争や地震も起こります。かけ手は敏感に変化を感じ取り、悩みを訴えます。その変化に対応しながら慢心することなく、変化を恐れることなく、「人は変わることができる。」ことを、かけ手に伝えてゆきたいと考えております。

■ 今後の展開

テレビ報道等でいのちの電話の認知度は高くなりましたが、その反面、かけ手の方も多くいるため、なかなかつながらないとも言われています。昨今、相談機関は各専門別にあり、解決策の提供などがされていますが、いのちの電話のかけ手には解決できない問題に悩み、孤独を感じている方が多くいます。こういうかけ手との対話は大変難しいのですが、今後も気持ちに寄り添う相談員を増やすべく養成研修を続けていきます。今回盲導犬の受け入れを当団体自身が初体験して、受け入れの幅を広げられたことは今後に生かしていきたいと思っています。また、ここ数年は国・自治体などにより、

地域で孤立する人々を地域で見守る活動も実施されています。その中で、都内各地区の保健所から、いのちの電話の出前講座としてゲートキーパー講座等のご依頼をいただくケースが多くなりました。地域でのいろいろな場面でいのちの電話での活動に関心を持たれていて、私達の研修のやり方について再認識する良い機会になっています。今後も相談員を増やして、電話をかけてくる孤独や苦しみの中にいる人々への対応、地域のニーズにも応えてゆけるいのちの電話の活動であり続けたいと考えております。